

Rotary

イマジン
ロータリー

IMAGINE ROTARY



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 加藤 勝朗

幹 事 塚越 淳史

会報・雑誌委員長 関 元明

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2999号 2023年5月16日(晴れ) 第41回例会 会員数110名

点 鐘 加藤 勝朗 会長
司 会 副SAA 山下会員

◇ロータリーソング「奉仕の理想」

◇本日のランチ 牛鍋定食



ビジター紹介 細谷副会長

◇米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君(アマラ君)



会長挨拶 加藤 勝朗 会長

皆さん、こんにちは。ロータリーにはいくつかの年中行事があります。国際大会や地区大会はその年のRI会長やガバナーの意向で、毎年開催時期は異なります。一方で地区研修・協議会などは、大体同じ時期に開催されます。ロータリーの行事で季節を感じるようになると、ロータリアンとしてベテランの部類になるようです。新緑のこの季節、地区研修・協議会に参加した会員ばかりでなく、皆さんが「ロータリーは自分に何をしてくれるか」でなく「自分はロータリーのために何ができるか」を考えるきっかけになれば良いと思います。毎年微妙な変化のある地区研修・協議会の報告、よろしくお願いします。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君



幹事報告 塚越 淳史 幹事

◇現況報告書掲載用の事業報告書・事業計画書のご提出、お早めに。また、会員一覧等に変更がある会員の方は事務局にご連絡を。

◇2023-24年度のロータリー手帳が届きました。

受付にありますので、希望者はお持ち下さい。



委員会報告

◇出席委員会

尾野崎副委員長

<皆出席表彰・4月分>

連続28年 片山 幸志会員

連続13年 松山 栄会員

通算13年 入江 武会員

連続12年 黒澤 佳樹会員

連続11年 塚越 淳史会員

クラブ協議会(第7回)

<2023-24年度 地区研修・協議会の報告>

出席者数47名

司会 谷田部修次年度幹事

5月14日(日)に佐野日本大学高等学校の講堂兼総合体育館メインアリーナ及び本館・特別教室にて開催されました。ホストクラブは田沼ロータリークラブです。13時に開会、挨拶、基調講演が行われ、その後、各部門で分科会が行われました。当クラブ出席者

会長・幹事部門：石川(元)会長エレクト

谷田部(修)次年度幹事

職業奉仕部門：飯泉次年度職業奉仕副委員長

クラブ奉仕部門：小林(正)次年度クラブ奉仕委

員長・伴次年度会員増強委員長

青少年奉仕部門：永井次年度青少年奉仕委員長

社会奉仕部門：手塚次年度社会奉仕委員長

国際奉仕部門：片嶋次年度国際奉仕委員長

ロータリー米山記念奨学会部門：渡邊(和)次年度

ロータリー米山記念奨学会委員長 以上8名

会長・幹事部門報告



・石川元信会長エレクト

全体会議では刀根莊兵衛氏より「今、ロータリーの未来を考える」の基調講演を頂きました。DEIによってロータリーがどう変わっていくのか、というような講演でした。私が特に印象に残ったのは、伝統をどう残していくか、伝統を踏まえてどう変化していくか、ということでした。

研修会ではゴードン R. マッキナリー次年度RI会長の「世界に希望を生み出そう」について、改めて、講演の集約した部分を聞きました。メンタルヘルス、精神的な健康をどう保つのか、重点的に言っていました。心に傷を持つ者に手を差し伸べることによって自分も癒されていく、ということです。また、2550 地区三井福次郎ガバナーエレクトの地区スローガンは、「ロータリーの基本はクラブです！クラブを通したロータリー生活を楽しみましょう！言葉や口先だけではなく「行動」をもって誠実にロータリーを楽しみましょう！」です。自分がロータリー、“I am Rotary.”とおっしゃっていました。

ガバナー方針は、

1. クラブ活動の再構築を
2. 3年後或いは5年後のクラブを描きましょう
3. 仲間を増やそう
4. 次の世代の若者に少しでも手厚い援助を
米山奨学金、グローバル奨学金等を通して
5. ポリオの撲滅に力をもう一步です。
6. ロータリーを知ってもらおう

次年度は皆様とともに、「ロータリー」というものを考えていきたいと思っています。

職業奉仕部門報告



・飯泉修一次年度職業奉仕副委員長

分科会の冒頭、田中地区委員長による「職業奉仕に関する考え」がありました。「職業奉仕は何となく難しいと思われがちだが、職業奉仕活動は団体活動というよりも、ロータリーの会員それぞれが考え、思いを込めて実践していくものである。職業奉仕に限らず、決して一つの答えを出すとい

うことではなく、ロータリーの会員一人一人が、ロータリアンである事の幸せを味わっていただき楽しみながら、活動を行っていく。」という話でした。その後、参加されていた委員、その他の方々から「職業奉仕に関する考え」を披露していただき、総じて「仕事を通じて公共奉仕を行っていく」との意見が多かったと感じています。その中で二つの印象に残った話がありました。一つは、教育塾をしているロータリアンからの話で、中学生へ「職業奉仕」を説くとなると「職業奉仕は…お金もうけをドンドンやっていいよ！それは結果的に皆への奉仕になる」という話でした。もう一つは、“男はつらいよ”フーテンの寅さんの話で、毎回、一目ぼれしたマドンナに尽くしても、最後には“寅さん、ありがとう”と思いは成就しませんが、その時の寅さんの何とも言えないニッコリした満足そうな顔、これこそ究極の“奉仕”では？という話でした。「職業奉仕」とは決して答えが一つということではなく、幸せを味わいながら活動を行っていくということと感じました。

クラブ奉仕部門報告



・小林正明次年度クラブ奉仕委員長

クラブ奉仕部門にはクラブ奉仕、ロータリー情報、会員組織、プログラム、公共イメージ、DX推進と6つの小委員会があります。まず、三井ガバナーエレクトから地区スローガン、「ロータリーの基本はクラブです！クラブを通したロータリー生活を楽しみましょう！」の話があり、クラブがロータリーの礎、ベースになると強調されていました。地区方針には、「クラブ活動の再構築を：他にない特徴をクラブとして作りましょう・毎月委員会を開催して情報の共有化をはかりましょう」「ロータリーを知ってもらおう」等があります。

内山クラブ奉仕委員長からは、「様々な情報の提供とアドバイスを行えるようにしたい。社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、ローターアクトといった事業が円滑に行えるようにすることがクラブ奉仕部門の責務である。」との話がありました。

田尻ロータリー情報小委員長からは、「会員に発信するロータリー内外の情報と所属地域に対する発信事項(広報)、この2つがある。」という話でした。当クラブの場合は会員に対する情報提供が主ですので、地区と少し乖離がある感じがします。広報としては、会員企業の優秀社員をロータ

リーで表彰し、それを地域に広報する活動をしているという紹介がございました。こうした表彰を会員増強に繋げていきたい、とのことでした。また、「新入会員には早い時期にオリエンテーションを行い、ロータリーに対する意識向上と啓発に努めてください。」とのことでした。

五十嵐例会プログラム小委員長からは、「各クラブの例会内容を地区で集積し、魅力的な例会プログラムを企画してもらえよう、地区のホームページに掲載したい。」とのことでした。



・伴誠次年度会員増強委員長

三井ガバナーエレクトは、会員増強の具体的な目標を各クラブ「純増2名」と述べられました。その会員増強の目標達成のためには、「ひとつはロータリー活動の公共イメージアップを図り、その活動を知ってもらい、広く情報発信を図ることが重要である。もうひとつは、入会5年未満の退会者が多いことを問題視しており、退会防止に特に力を注いでほしい」と述べられました。また、地区方針の重点施策の一番目に「仲間を増やしましょう」と会員増強に関する提言が盛り込まれております。「クラブ会員一丸となって、仕事仲間のもとより、飲み仲間、ゴルフ仲間などの友人関係ができている「人間関係の良好」な方の入会を期待している。会員相互の経験と経歴を生かし、まさに今「クラブの危機」だと思い立ち上がって欲しい。」と述べられました。

分科会においては、狐塚会員組織委員長より退会の原因とその防止策について提言を受けました。特に会員数の減少は深刻で、「今年3月末の当地区の会員数は1636人。25年前は2700人で約1000人減少しています。退会者1000名を25年で割ると年間40名。40名を地区50クラブで割ると0.8人とひとり以下という、なんとなく少ない数字にはみえますが、それが25年積み重なると膨大な数字になることを真剣に考えてほしい、そして退会者をできるだけ防止して欲しい」と述べられました。今後は地区の方針ならびに、分科会での会員増強につながる様々な提言やアドバイスを受けて、これを当クラブにあてはめた場合、何が必要で、何が出来るかを見つめ直しその機会を行動に移せればと思います。

青少年奉仕部門報告



・永井泰幸次年度青少年奉仕委員長

分科会の冒頭でカウンセラーの川嶋パストガバナーより「若い世代に、日本の文化を世界に伝えてほしい。また、世界の若い世代に、日本の文化を知ってほしい。」「青少年交換プログラム等による青少年育成が非常に大切である。」というお話がありました。

北RCの二十二青少年奉仕委員長から、「青少年奉仕委員会はRYLA、青少年交換、インターアクトの3部門から構成されており、その目的は未来のリーダーを育てることにある。」ということでした。

宇都宮南RCの長谷川RYLA委員長から、「次年度はRYLAに力を入れたい」とのことです。一般RYLAセミナーは従来の2泊3日から1泊2日に変更され、2023年度は11月3日～4日にホテルニューイタヤで予定しているとのこと。各クラブは18歳～30歳の社会人又は学生を推薦してほしい、ローターアクト提唱クラブはローターアクトの派遣をお願いしますとのこと。高校生のRYLAセミナーは来年5月下旬から6月中旬に予定しているそうです。

佐野RCの井川青少年交換委員長からは「交換学生候補者は各クラブの推薦を受け選考しますが、目的意識をしっかりと持った学生を推薦してほしい。」とおっしゃっていました。2023-24年度の1年交換派遣学生は6名で、フランス、台湾、イタリア、デンマークから来ているとのこと、受入学生は8月過ぎに受け入れ予定とのこと。

宇都宮南RCの磯貝委員長からは、第4Gと第5Gにインターアクトがないのでチャレンジしてほしいとのこと。事業としては、海外研修、インターアクト年次大会、足尾植樹体験、そして、台湾との交流を進めていきたいとのことでした。

社会奉仕部門報告



・手塚正智次年度社会奉仕委員長

社会奉仕部門はカウンセラーが太城パストガバ

ナー、地区委員長が渡邊有規会員で当クラブのメンバーが活躍されている委員会です。分科会ではとちぎボランティアネットワークの矢野正広理事長から、子どもの貧困問題について、こども食堂の運営やシングルマザーの支援に関する卓話を頂きました。次年度はこれらを考えて何らかの奉仕活動を行うよう、会長幹事・理事役員会に提案して行きたいと思います。

国際奉仕部門報告



- ・片嶋常隆次年度国際奉仕委員長
次年度の活動計画としましては、
 1. 具体的国際奉仕活動の推進
 2. グローバル補助金活用の国際奉仕活動の実践
 3. 具体的支援国への訪問（グローバル補助金事業の現地視察）
 4. 姉妹クラブ・友好クラブの推進とうたっておりますが、その中で善林国際奉仕委員長が強調していたのは、もっとグローバル補助金をつかって国際奉仕をしましょう、ということでした。ここ数年、コロナ禍のなか、国境を越えての国際奉仕活動は制限されていました。その中でも、グローバル補助金を使って、タイのあるクラブに医療機器を送ったクラブがあり、現在も進行中だそうです。2023-24年度もグローバル補助金を申請する予定のクラブがあるそうです。これは、タイの別なクラブに救急車を送る計画だそうです。また、主体になるクラブにお手伝いをする

という形で、支援をするやり方もあるので、そこらも検討して下さい、とのことでした。地区の委員会では、もっと身近に国際奉仕ができるようにお手伝いをするので、グローバル補助金事業にチャレンジしてみて下さいとのこと。次年度のクラブの国際奉仕活動に反映させていきたいと思っております。

米山記念奨学会部門報告



・金子剛次年度米山記念奨学会副委員長

渡邊和裕次年度委員長が不在のため報告書を代読させていただきます。2023-24年度の米山記念奨学生は継続7名、新規16名の23名とのことです。国別では中国の奨学生が増加していて、ついでベトナム、ネパールで、従来多かった韓国、台湾からの奨学生はアメリカに留学しているとのことです。寄付は、引き続き、一人当たり普通寄付3,000円、特別寄付と併せて年間19,000円が目標ですので、ご協力お願いいたします。

米山記念奨学会学友会についてですが、多くの奨学生に卒業後、学友会に入っていただき、日本と祖国の架け橋になってもらうことが目的です。イベントとして、第3回世界米山学友による「再会 in 関東」が8月5日～6日につくば市にて開催されます。登録料は、ロータリアン15,000円、奨学生・学友・家族・友人は7,000円、参加締切りは6月30日とのことです。参加希望の方は渡邊(和)次年度委員長迄ご連絡ください。